

科目名	行動分析学特殊研究	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	ヒトの行動は、実体験による学習、観察による学習および教示による学習により変容します。この教示による学習による行動変容は、言語的に記述された行動随伴性に従う行動という意味で、ルール支配行動とも呼ばれ、ヒトに特有で効率的な学習を可能にしています。一方、誤ったルールの提示により誤った行動が形成・維持される場合もあります。行動分析学特殊研究では、自身の誤った言語的ルールにより形成された病理である鬱の形成メカニズムの基礎として注目されている「刺激等価性」の理解を目的とします。【日本大学教育憲章ルーブリック：A-3, A-4】		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案できる能力を習得する。 論理的・批判的思考力：得られた情報を元に論理的な思考、批判的な思考を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1) 知識・解釈：刺激等価性の定義を説明できる。 2) 知識・解釈：刺激等価性研究の発展史を説明できる。 3) 知識・解釈：刺激等価性研究における基礎と応用の関連を説明できる。 4) 知識・問題解決：刺激等価性の臨床への展開を説明できる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio の全受講者用の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する情報交換を行います。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>レポート作成を行うことにより目標スキルを獲得します。まずは、課題に従って基本教材と参考書を読み、草稿を仕上げ提出します。これに対して、修正・追記が必要かどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。 1 レポートあたり 45 時間以上の学習時間が必要です。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>知覚心理学・発達心理学コミュニケーションスキル・行動分析学の学習等に 48 時間程度の準備学修時間を要します。</p>		
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：刺激等価性の定義と研究史 1) 刺激等価性の定義の理解 2) 刺激等価性研究の研究史の理解 後期：刺激等価性研究の現在における意義 1) 刺激等価性の基礎研究と応用研究の理解 2) 刺激等価性の臨床場面への展開の理解 前期の草稿は 7 月末日まで、後期は 11 月末日までに提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。最終稿は、前期：9 月 19 日、後期：1 月 14 日までに提出してください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100 %	下記の点について評価します。 1) 留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2) レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3) 「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	観察記録	25 %	草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？
履修者への要望	レスポナドント条件づけや、オペラント条件づけ、ABC 分析など、行動分析学の基礎はすでに学習していることが必要です。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： Murray Sidman            教材名： “<i>Equivalence Relations and Behaviour: A Research Story</i>”            ペーパーバック ISBN 978-0-96-233116-9            Cambridge Center for Behavioral Studies 1994年            【紀伊國屋洋古書検索で¥14,312～ 海外取次 通常, 6-8週間程度で発送            アマゾン中古有】            著者名： 眞邊一近            教材名： ポテンシャル学習心理学 (サイエンス社, 2019年3月出版予定)</p> <p>第一図書は、ヒトの言語行動や言語に起因する病理(鬱など)を理解する上で重要な概念の一つである Stimulus Equivalence (刺激等価性) を最初に提唱し実証してきた著者が、刺激等価性の研究史をまとめた著書であり、刺激等価性を理解する上で欠かせない一冊である。            第2図書は、行動分析学の基礎となる学習心理学の概説と、言語の病理について日本語で解説したテキストである。</p>
参考図書	<p>武藤崇『アクセプタンス&amp;コミットメント・セラピーの文脈 臨床行動分析におけるマインドフルネスな展開』(ブレイン出版(株), 2006年) ISBN:978-4-89-242836-4 3,500円+税            ジェームズ・E・メイザー『メイザーの学習と行動』(二瓶社, 1999年) ISBN:978-4-93-119968-2 4,000円+税            ルバート・トルートマン著(佐久間徹・谷晋二監訳)『はじめての応用行動分析』(二瓶社, 1992年) ISBN:978-4-93-119915-6</p>
履修上のポイント	刺激等価性の定義と歴史を学ぶことを主眼として下さい。
レポート課題 1	刺激等価性とは何かについて、その定義、手続きなどの研究方法についてまとめよ。 <b>留意点:</b> テキストに掲載されている内容に基づいて、刺激等価性の定義についての概説を書いて下さい。
レポート課題 2	刺激等価性研究の歴史について概説せよ。 <b>留意点:</b> 刺激等価性研究における障害児や動物を対象とした研究の歴史についての概説を書いて下さい。

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： Murray Sidman            教材名： “<i>Equivalence Relations and Behaviour: A Research Story</i>”            ペーパーバック ISBN 978-0-96-233116-9            Cambridge Center for Behavioral Studies 1994年            【紀伊國屋洋古書検索で¥14,312～ 海外取次 通常, 6-8週間程度で発送            アマゾン中古有】            著者名： 眞邊一近            教材名： ポテンシャル学習心理学 (サイエンス社, 2019年3月出版予定)</p> <p>第一図書は、ヒトの言語行動や言語に起因する病理(鬱など)を理解する上で重要な概念の一つである Stimulus Equivalence (刺激等価性) を最初に提唱し実証してきた著者が、刺激等価性の研究史をまとめた著書であり、刺激等価性を理解する上で欠かせない一冊である。            第2図書は、行動分析学の基礎となる学習心理学の概説と、言語の病理について日本語で解説したテキストである。</p>
参考図書	<p>武藤崇『アクセプタンス&amp;コミットメント・セラピーの文脈 臨床行動分析におけるマインドフルネスな展開』(ブレイン出版(株), 2006年) ISBN:978-4-89-242836-4 3,500円+税            ジェームズ・E・メイザー『メイザーの学習と行動』(二瓶社, 1999年) ISBN:978-4-93-119968-2 4,000円+税            ルバート・トルートマン著(佐久間徹・谷晋二監訳)『はじめての応用行動分析』(二瓶社, 1992年) ISBN:978-4-93-119915-6</p>
履修上のポイント	第1図書は、最初の章から順番に読んでいくことを勧める。また、第2図書は、刺激等価性と言語の病理について日本語で解説されているので、第1図書の中でいわれていることの根拠を理解する上で、第2図書を読んだ後で第1図書を読むと良いだろう。
レポート課題 1	刺激等価性研究を例として取り上げ、行動分析学における基礎と応用の関連性について概説せよ。 <b>留意点:</b> 応用行動分析学は、基礎研究から得られた知見の上に成り立っています。基礎研究の重要性が分かるようにまとめて下さい。
レポート課題 2	参考図書であげているアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) への展開について概説せよ。 <b>留意点:</b> 関係フレーム理論における刺激等価性の位置づけについて概説し、機能等価性についても言及して下さい。